

中央電気倶楽部

内部見学不可



自分を主体として正しいと考えたことを追い求めていく。そんな自然な自信を備えた建築家が次々に仕事を展開し、1920年代から30年代の大阪建築は第一の黄金期を迎えた。中央電気倶楽部は、そんな動きをリードした葛野壮一郎の設計。堅苦しさに囚われない変化に富んだ意匠を持ち、西天満の大江ビルヂングと共に葛野の代表作に挙げられる。電気関係者の社交倶楽部という理念は維持しながら、5階のホールをはじめとして、今では幅広く活用されている。電気倶楽部に冠される「中央」の名称は、東京中心の日本電気協会に反発した関西支部が1913年に分離独立した際、日本の中央であるとして付したものだ。ここにも静かな誇りが窺える。

(倉方俊輔)

所在地：大阪市北区堂島浜 2-1-25

建設年：1930年

構造・規模：SRC造5階、地下1階

設計：葛野建築事務所（葛野壮一郎）